

日時: 2011年3月25日 15:40:25JST

件名: Epilepsy_Disaster_110325_15:40

関係各位

- ・メールマガジンの強制的な配信は、本日でいったん終了します。
- ・このメールで配信するのは、東北大学病院てんかん科に入った災害時のてんかん診療関連情報です。
- ・配信先は、東北地区のてんかん診療従事者、日本てんかん学会幹部、行政関係、製薬会社、マスメディア等。
- ・未曾有の災害時につき、大量配信（239名）をお許し下さい。再転送は自由です。
- ・新規情報ほど、上に記載されています。
- ・この情報配信のバックナンバーは、今後の検証に備えサイト (<http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/>) にも載せます。古いバージョンでは、現状に合わない情報もありますのでご注意ください。

<概況> New!!

- ・災害発生から14日目。被災地の病院への薬の供給は、一部の地域を除いて、ほぼ正常化しました。
- ・メールマガジンの強制的な配信は、本日でいったん終了します。今後はウェブサイトでの情報配信に戻ります。
- ・今後は通常の医療システムを整備する方向で被災地を応援したいと存じます。
- ・てんかん学会で立ち上げたホットラインが、災害が収束したあとも継続されることを祈ります。
- ・メールマガジンへの応援ありがとうございました。いづれかでもお役にたてたようで、うれしい限りです。
- ・多くの皆様からの情報提供と応援メッセージを頂戴しました。心より御礼申し上げます。

<被災地の病院における薬の供給> New!!

- ・本日、岩手・宮城の被災地にある主要病院の薬剤部に電話を入れ、抗てんかん薬の供給体制を確認しました。
- ・現在、卸業者さんが毎日、配達に来てくれるとのことで、薬不足の危機は去った、との返事でした。

- ・震災直後、日本てんかん学会からの援助物資が届いた時は危機的状況だったとのことで、感謝の言葉を頂戴しました。
- ・某小児科医からの指摘で、面倒な散剤の調整などができず小児の患者さんが困っていないか、との心配が寄せられました。

<被災地での治安悪化への懸念> New!!

- ・昨日は、多賀城地区で、浸水した大型電機店に入って商品を運び出す集団がいた、との情報あり。
- ・一昨日、石巻地区に入った東北大学の大学院生からの情報によると、市内では金属バットを持って歩く集団をみかけた、とのこと。
バットは自衛目的であることを祈るが、現地に入る方は、治安にも注意する必要がある。

<抗てんかん薬と向精神薬の配布> New!!

- ・東北大学の曾良教授が中心となり、製薬会社からの寄附等で集められた抗精神薬が、昨日と本日、宮城県と福島県の被災地の病院に配布されました。
- ・先に集められた抗てんかん薬の残りに関しても、同様のルートで配布されました。
- ・被災地では散在・顆粒剤・合剤などは、調剤の手間がかかるため、あまり歓迎されませんでした。今後はなるべく錠剤でお願いします。小児用のシロップは需要がありました。

<東北大学病院が一般の外来診療を開始しました> New!!

- ・3月22日より、東北大学病院のすべての診療科が外来診療を開始しました。再来患者さんに限定です。
- ・来週3月28日からは、新患も含めて通常の診療体制に戻ります。

<気仙沼病院派遣医師からの報告>

- 東北大学脳神経外科（冨永教授）から気仙沼市立病院に派遣された大沢医師より、現地情報が入りました。
- ・全体として、気仙沼病院のスタッフは疲弊しているが、現在も休みなしで献身的な診療活動を継続している。

・てんかん重積や痙攣発作での急患には、バルプロ酸が良く使われ不足した時もあった。どの科の医師も知る薬であり、即効性あり、災害時には使い安いと考えられる。

・「胃管経由のレベチラセタム急速投与が重積発作に有用」との講演（気仙沼医師会 2月23日）を聞いた医師は、その有用性を実証することができた。

・津波の被害を受けた某精神病院では、建物が倒木などで孤立してしまい、患者とスタッフが疲弊している状態にある。医療以前の生活していくというレベルで劣悪な様相を呈してきている。なんらかの行政の処置が必要では、との意見が、東北大学病院精神科のスタッフに伝えられた。

<災害後ストレス反応（PTSD）への対応>

- ・被災地では、津波から逃れることができた被災者が自殺した事例あり。
- ・検屍を担当した歯科医が、PTSDと考えられる症状を呈する問題が出現。
- ・震災時のストレスへの対応に関して、東北大学医学系研究科の4分野の教授の共同執筆による全職員への通知を転載します。

<http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110324stress.pdf>

・子どもと女性の保護について、「災害と女性」情報ネットワークをご参照ください。

<http://homepage2.nifty.com/bousai/>

・女性の性暴力について、大分県が「女性の視点からの防災対策のススメ」というパンフレットを作成しています。

<http://www.againstgfb.com/05-0d.pdf>

<てんかん支援ホットラインの解説>

静岡てんかん・神経医療センターが、災害支援のための「てんかんホットライン」を解説しました。

電話・ファックス・メール・ホームページからのアクセスが可能です。

詳しくはこちらの案内（PDF）をご覧ください。

http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110322_shizuoka_hotline.pdf

<医師専用サイトm3.comに、小出先生たちの活動が掲載されました>

=====

「診療中に涙がこぼれた」、甚大損害の被災地において
避難所を支援した小出医師と東北大学中里教授が現地支援の現状を報告
<http://www.m3.com/iryolshin/article/134262/>

=====

<岩手医大 学長、小川彰先生がメッセージを発信>
岩手医科大学小児科の亀井淳先生（てんかん専門医）から、「多くの人に見てもらいたい」との連絡です。
<http://www.iwate-med.ac.jp/infomation/newsevent/2011.3.22.html>
小川学長が19日（土）に沿岸部を視察した上でのメッセージであり、説得力があります。

<東日本大震災に係る精神保健・医療・福祉支援をつなぐメーリングリスト>
東日本大震災に係る精神保健・医療・福祉支援をつなぐメーリングリストです。
お問い合わせは、グループ管理者のアドレスまでメールでお寄せ下さい。
過去の投稿を閲覧する際にはYahoo!JAPANのIDを取得し、Yahoo!グループ
（<http://groups.yahoo.co.jp/>）にアクセスして以下のように進んで下さい。
Myグループ>touhoku-support>すべてのメッセージを読む

ヘルプページ：<http://help.yahoo.co.jp/help/jp/groups/>
グループページ：<http://groups.yahoo.co.jp/group/touhoku-support/>
グループ管理者：<mailto:touhoku-support-owner@yahoogroups.jp>

<日本てんかん学会事務局からの連絡>
差出人: 日本てんかん学会 <jes-oas@umin.ac.jp>
日時: 2011年3月22日 11:08:13JST
件名: 日本てんかん協会からのお願い

日本てんかん学会
てんかん専門医指導医 各位

みなさま大変な中ご支援ありがとうございます。

日本てんかん協会からのお願いを代ってお送りいたします。
ご査収くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
可能な範囲で結構ですので、震災に関する連絡の際に添付の内容を各医療機関
・報道・自治体・患者さまへ広報のご協力をお願いいたします

日本てんかん学会
理事長 兼子 直

添付文書はこちらかどうぞ.

[http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/
110322hisaichimesseiji.pdf](http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110322hisaichimesseiji.pdf)

[http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/
110322hokenkankeitoriatukai.pdf](http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110322hokenkankeitoriatukai.pdf)

[http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/
110322iryokikannoriyohoho.pdf](http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110322iryokikannoriyohoho.pdf)

<学会ウェブサイト>

静岡の井上有史先生らの努力によりまして、てんかん救援サイトが立ち上がりました。

http://web.me.com/kei.i/Epilepsy_Disaster/Main.html

<ボランティアの心得>

・石巻日赤病院脳神経外科の沼上先生から電話連絡がありました。現地には大勢のボランティアが入ってきていますが、自立完結型でない場合に、かえって現地で迷惑を引き起こしている事例があるとのこと。「帰りのガソリンを手配してくれ」

「現地の地図をくれ」「何の仕事をしたらいいのか指示をくれ」などなど。あげくのはてには、「やるべき仕事がない、と泣いて帰るボランティアもいる」とのことです。ボランティアを企画されている皆様、大人としての自覚をもって出発されるように。くれぐれも被災者や、他の援助チームの邪魔にならないよう、完全自己完結型での援助をお願いします！

・「医師も必要だが、薬剤師・看護師はもっともっと必要」との言葉もいただきました。ボランティアチームを編成される場合には、医師単独よりも、チーム医療を念頭においていただくのが良いようです。

中里信和

—

東北大学 大学院医学系研究科 運動機能再建学分野／教授

(注：運動機能再建学分野は、4月より、てんかん学分野に変更されます)